

部長	理事	課員	担当者

## 議 事 録 要 旨

会議名	第1回芦原温泉駅まちづくりデザイン部会
日 時	令和元年5月22日(水) 19:30~21:15
場 所	あわら市役所 203 会議室
出席者	<p>&lt;部会員&gt;            市民/笹原修之(部会長)、高木めぐみ、西田幸男            福井工業大学/川島洋一(教授)            市職員/鳥山公裕、中辻雅浩、細川正樹、中島之裕、坂井真生、竹内優美</p> <p>&lt;事務局&gt;            新幹線まちづくり課/永井理事、翠補佐、赤神主任</p>
欠席者	<p>&lt;部会員&gt;            市民/八木康史、森嗣一朗</p>
内 容	<p><b>1 開 会</b>  <u>事務局:</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年5月の部会において芦原温泉駅周辺まちづくりプランの素案の検討を行い、これを同年7月の地域ブランド戦略会議において提言し、現在、このプランを基に駅周辺のまちづくりを進めている。</li> <li>・今年度は、プラン策定後の次のステップに向けて、新たな役割を担っていただくために、一部部会員の見直しを図りながら進めていきたいと考えているが、本日はその体制やスケジュールについて協議をお願いしたい。</li> </ul> <p><b>2 部会長あいさつ</b>  <u>部会長:</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度は、形の見えない中で意見を出し合いプランとしてまとめていくといった作業の繰り返しで、大変難しい1年であったと思う。</li> <li>・今年度のデザイン部会は、市長がおっしゃるようにプレーヤーの意見を聴取しながら、形をつくるのがゴールではなく、より使いやすいものとするために細かな部分の意見を出し合うことが大切だと思う。</li> <li>・今後は、いろんな経験をお持ちの方々を新たに部会員として迎え入れ、忌憚のないご意見をいただき、いろんな事例も参考にしながら、さらに協議を深めていきたい。</li> </ul> <p><b>3 協議事項</b>  <b>(1) 部会の見直しについて</b>  <u>事務局:</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・まず、部会の役割や位置関係について、体制図を基に確認する。</li> </ul>

- ・市では、平成 28 年度に地域ブランド戦略会議を設立し、ブランド戦略の最高意思決定機関とし、その下に 2 つの専門部会を設け、「地域ブランド」と「駅周辺まちづくり」の 2 本柱で、この 2 つを連携しながらこれまで事業を進めてきた。
- ・平成 28 年度は、(ブランド専門部会において) 地域ブランド「ああ、あわら贅沢。」を確立し、駅周辺まちづくりとも連動し一体的に進めるため、(まちづくりデザイン部会において)「都会にはない贅沢があるまち」をコンセプトに将来デザインを描き、市民投票により数点を選定した。
- ・平成 29～30 年度は、採用された将来デザインに込められた理念を踏まえ、賑わい創出のために必要な機能や仕組みを定める「芦原温泉駅周辺まちづくりプラン」を策定した。プランの策定にあたっては、芦原温泉駅周辺賑わい創出協議会を設立し、川島先生に協議会の会長を務めていただき、市民部会員の皆さんにも委員として参画いただいた。
- ・本日の資料にも、最新のまちづくりプランを配付しているが、昨年 7 月の策定時からの変更点は次の 3 点である。
  - (1) 西口駅前広場と西口立体駐車場のイメージパースが正式に決まったこととで掲載
  - (2) 駅前交番の位置が現在の J A の A T M がある敷地内に決まったため、新たに掲載
  - (3) 西口駅前広場をグレーに塗りつぶし
    - ※ 広場の基本設計を行うにあたり、一部レイアウトの変更を検討しており、現在未確定であるため。左上のピンクの吹き出しに記載のある賑わいホールや賑わい広場、観光案内・魅力体感施設の機能を広場内に設けることに変更はないので、今後、人の動線や周りの施設とのつながりを検討する中で配置を固めていきたいと考えている。
- ・デザイン部会の取組と並行して、庁内においても、市長をトップとして関係部課の部長、課長、G L で組織する北陸新幹線開業効果推進会議や、若手職員を中心としたプロジェクトチームにおいて、インフラ整備の進捗管理や駅周辺のまちづくりについて検討を行っている。
- ・部会や庁内で検討した結果を年 2 回程度開催されるブランド戦略会議に諮りながら、今年度も事業を進めていきたい。
- ・続いて、部会见直しの案をご覧いただきたい。
- ・左の表が現在の部会員名簿。市民から 5 名、川島先生、市職員 6 名の計 12 名で構成されている。事務局は、新幹線まちづくり課。
- ・右の表が今回の見直し案。現在、観光振興課において西口駅前広場の基本設計業務を進めているが、広場内に計画している屋根付きの賑わい広場 (約 600 m<sup>2</sup>) や屋根・壁有りの駅利用者の待合機能も備えた賑わいホール (約 300 m<sup>2</sup>) などの活用方法や駅周辺にある a キューブなどとの連携について、施設の設計段階からイベントの運営主体やプレイヤーの意見を取り込んで、使いやすく、また広く使ってもらえる施設とするために、部会の構成員の見直しを図りたいと考えている。
- ・赤字が新たな構成員の案である。市民部会員と川島先生には引き続き、部会員としてお願いしたい。
- ・新たに部会員として委嘱する 10 名については、イベントの運営主体やプレイヤーとしてイベントを行っている方々を中心に事務局において選定させていただいている。

津田氏（観光協会）、堀田氏（文化協議会）、松川氏（商工会青年部）

→所属の団体が運営するイベントだけでなく、いろんな団体のイベントなどにも参加されており、多様なイベントの実施の可能性や施設の使い勝手の面でご意見をいただきたい。

唯内氏・山口利志実氏（JA花咲ふくい）

→軽トラ市やマルシェの実施の検討に向けて、JAに人選を依頼し推薦いただいた。

山口賢司氏（旅館組合）

→グランディア芳泉の代表取締役専務で、市長お墨付きのアイデアマンとしてお願いする予定である。

青柳氏（音泉組）

→音楽イベントを市内外で数多く手掛けられており、広場内の音響や設え等を中心にご意見をいただきたい。

藤井氏（農家カフェ）

→市内の農家や県内の大学生とのネットワークをお持ちで、個人の移動販売だけでなくいろんな方々を巻き込んだ形で今後の広場の活用に繋げていただきたい。

圓道氏（あわらコミュ）

→3年前に休校した波松小学校を舞台に、石川・福井の古道具や雑貨店やカフェなど約50店舗を集めて、2日間で2千人を集客したイベントの運営実績がある。その幅広いネットワークで広場ができた後の活用にもご協力をいただきたい。

長田氏（ASOVIVA!）

→下番にある長田接骨院の先生。ASOVIVA!は、5歳以上の子どもたちを対象に、遊びを通じて、立つ・走る・投げる・回る・跳ぶ・ぶら下がるなどの基本動作を教えることで、子どもたちの運動能力を底上げするというコンセプトで市内の公共施設を会場に定期的に開催している教室。先月には、西武福井店で、ベルトの上を綱渡りのように歩くスラックラインという遊びを取り入れたイベントを開催し、多くの子どもたちを楽しませた記事が新聞に載っていた。賑わい広場にも、子ども目線で子どもたちが気軽に楽しめる空間づくりも視野に入れながら検討していきたい。

- ・事務局は、現在の新幹線まちづくり課に加えて、賑わい施設の運営やaキューブや駅前商店街との連携の担当課として、商工労働課の中島補佐と観光振興課の細川補佐が入る体制とする。
- ・その他の市職員の部会員につきましては、本日の部会をもって解任とさせていただく。
- ・最後に、オブザーバーとして西口駅前広場基本設計委託業者の榊木下設計と駅周辺3区（新富・天王・水口区）で構成される景観まちづくり協議会の運営支援業務を委託している榊コム計画研究所を含めた体制とする。

## (2) 今後のスケジュールについて

事務局：

- ・部会の新体制のスタートは、6月10日(月)に1回目の会議を予定している。
- ・今年度のスケジュールについて。現在、観光振興課において、西口駅前広場の基本設計業務を行っているが、施設の整備にあたっては、まずは基本設計（R1）を行い、その後

実施設計（R2）を行い、建築（R3・4）を行うこととなる。基本設計の段階で、施設内のレイアウト、建築の構造、機械・電気設備、外構、街路灯や街路樹の選定までを粗方決めていくことになるが、この業務を今年度末に仕上げたいと考えている。そのために、広場をどう活用していくか、そのためにどのような設えが必要なのかをメインテーマとして部会の皆さんのアイデアやご意見をいただき、9月までに、その意見を集約したいと考えている。そのため、前半に頻度を上げて、月1～2回程度の会議を開催し協議を重ねていきたい。その後、10月からは集約した意見を市の方で基本設計に反映していく作業に入る予定である。途中、部会にも進捗報告を行いながら、庁内の新幹線開業効果推進会議等で検討する駅周辺のまちづくりなどに関する事項についても、外部の方の意見をいただく場として、部会の中で協議を行うことも考えているので、よろしくお願いしたい。

事務局：

- ・(1)部会の見直し、(2)今後のスケジュールについて、質問等があればお願いしたい。

部会員（全員）：

- ・意見、質問なし

**(3) 西口駅前広場（賑わい広場）整備の進捗状況について**

部会員（観光振興課）：

- ・今年度より観光振興課で西口駅前広場の基本設計業務を担当することになった。プロポーザルにより委託業者（株式会社下設計）を選定し、業務が始まったばかり。機能の配置は資料に記載のとおりで大方決まっているが、中身はほとんど決まっていない。今後、部会において意見をいただき、業務に反映していきたいと考えている。具体的には、賑わい広場や賑わいホールを活用したイベント等を考えたときに、どのようなものが必要か、どのような設備があると使い勝手がよいのかなどのご意見をいただきたい。

事務局：

- ・補足すると、部会では、賑わい広場と賑わいホールの活用方法の検討をメインに行い、カフェ、物販店舗、観光案内、魅力体感スペースについては、市と委託業者で運営や整備方針を固めていく。

部会員（観光振興課）：

- ・魅力体感スペースについては、株式会社丹青社と基本設計の委託契約を締結したところである。

事務局：

- ・ざっくりとした説明であるが、この段階でのご意見やご質問があればお願いしたい。

部会員：

- ・あったらいいなという機能については、今後盛り込むことが可能という理解でよいか。

事務局：

- ・6月からの新体制でそのような協議も行っていきたいと考えている。

部会員：

- ・賑わいホールと賑わい広場をつなぐガラス戸（壁）はどのようなイメージか。

部会員（観光振興課）

- ・電動で跳ね上げることができるようなイメージである。予算の兼ね合いもあるが、中の

様子が見られる透明素材で可動式の開閉できるものを考えている。資料に記載のワゴンセール開催時のようにホールと広場の仕切りをなくして一体利用できることなどを考えている。

部会員（観光振興課）：

- ・賑わいホールは、基本的には駅利用者の待合所としての機能を果たすため、平常時は広場と仕切った使用が多いと思う。季節に応じて、開放して風を入れるなど、過ごしやすくすることも考えられるであろう。

部会員：

- ・賑わいホールに車両は入れるのか。

部会員（観光振興課）：

- ・現段階でそこまでの検討に至っていない。資料はあくまでイメージなので、今後そのような検討も行っていきたい。

部会員：

- ・（自由通路の）下りのエスカレーターは元々の計画にないが、今後どうするのか。

事務局：

- ・自由通路の幅が6mで決まっているので、下りのエスカレーターを入れるとなると階段の幅を狭くせざるを得ない。非常用階段として役割を果たせるのかの検証が必要となる。エスカレーターの幅を狭くすることもできるであろうが、一人通るのがギリギリの幅では利用しづらくなることも懸念される。

事務局：

- ・現在、自由通路の設計業者を含めて検討を行っているので、費用対効果も踏まえて方針が決まれば報告させていただく。

部会員：

- ・今後、広場等でのイベントの実施を検討していくのだと思うが、毎日行うことは現実的には難しい。平常時が閑散としないような方策も検討していった方がよいのではないか。

部会員（観光振興課）：

- ・土日祝日のイベントだけに止まらず、普段から人が来てくれるようなイメージの施設をつくりたいと考えている。

事務局：

- ・施設内にカフェを計画しているが、旗艦店舗の集客力を活かして、広場内の機能も高めていきたい。人が集まれば、そこで何か始めようという動きが出てくると思う。今後、その機能を高めることも部会の中で検討していきたい。

事務局：

- ・魅力体感スペースについても、基本設計を行う中で、平日、休日問わず、人をどう呼び込むかの検討を行っていく。子どもや女性も足を運んでくれるようなスペースとしたい。

部会員：

- ・新幹線を降りたお客がダイレクトに魅力体感スペースに行くことはできるのか。

部会員（観光振興課）：

- ・行くことができるように計画している。

部会員（観光振興課）：

- ・下りのエレベーターを自由通路ではなく、魅力体感スペースの方に取り付けるアイデアも出ている。そうすることで、自ずと魅力体感スペースに誘導することもできる。

部会長：

- ・それは現実的にできるのか。

部会員（観光振興課）：

- ・建築的にはできるが、運営上うまく考えないと、（夜間など）建物を閉めたときにエスカレーターが使えなくなるなどの問題も生じる。

部会長：

- ・資料左上の平面図の文言に「西口交流広場」とあるが、「西口交通広場」ではないのか。

部会員：

- ・そのとおり、「西口交通広場」の間違いである。広報あわら5月号もこのまま掲載している。大変申し訳ない。

部会長：

- ・賑わいホールの壁（ガラス戸）は、上が閉じられているのか。閉じられている状態であれば、空調は万全か。

部会員（観光振興課）：

- ・上は閉じられている。空調は、空間全体というより、人がいるあたりの空間を下から冷やしたり暖めたりすることになるであろう。

部会員：

- ・福井駅前のハピテラスで問題となっているのは、上が閉じられていて下が開いているので外はそんなに風が強くなくても中に強い風が吹き込んで、中にある看板が倒れるといった現象が起きていることである。

部会長：

- ・a キューブのように手動の蛇腹のガラス戸やイースターカーテンは重くて使い勝手が悪い。予算のこともあると思うが、現場で使用する人たちのことも考えて是非とも電動でお願いしたい。

部会員（観光振興課）：

- ・今後、検討したい。

部会長：

- ・大屋根は全部が透けているのか。

部会員（観光振興課）：

- ・あくまでイメージだが、全部ではなく、所々天窓になっている部分のみが透けている。実施設計段階で変更はあり得る。

部会員：

- ・賑わいホールがオープンスペースで隠れる部分が見当たらないが、イベントを行う際の控え室はあるのか。

部会員（観光振興課）：

- ・ホール南側（左側）の2階部分に会議室や備品倉庫、モニター・音響の機械室等を計画

しており、その一部をイベントの際の演者控え室として利用できるように考えている。

部会員：

- ・ a キューブの1つに壁をつくって、周りから見えないようにして控え室として使えないだろうか。

部会員（観光振興課）：

- ・ 限られたスペースではあるため、あれもこれもは無理であるが、今後設計を進める中で、できる限りの検討を行っていききたい。

部会長：

- ・ 今のおしえる座あ場所はバックヤードとして使えないのか。

事務局：

- ・ JR西日本所有の施設なので、現時点では何も申し上げられない。

部会長：

- ・ a キューブのイベント機能を賑わい広場に移すとした場合に、a キューブを改修して別の機能にするといった検討も今回行っていくのか。

事務局：

- ・ a キューブを改修することは可能だと思うが、用途変更の手続きが必要となり、耐震改修など多額の事業費を要することになるであろう。

部会員：

- ・ a キューブの利活用については、これからつくる魅力体感スペースと一体的に検討すべきと考えている。なお、改修となった場合は、県補助金の返還も必要になるであろう。

部会員

- ・ お金をかければa キューブの改修もできるであろうが、今お金がかかるのは賑わい広場である。賑わい広場ができた後の次の段階でa キューブの利活用を検討していくことも考えの一つである。

部会長：

- ・ 賑わい広場とa キューブの連動を今後議論していくと、新幹線開業までにa キューブをどうにかしないといけないのか、開業後何年かで手掛けていくのかで、話が変わってくると思う。開業後に考えるのであれば、今慌てて議論しなくてもよいであろう。

部会員（観光振興課）：

- ・ 今後議論していく中でa キューブについてのアイデアや意見はいただきたいが、まずは今のまま使用することを前提に話し合っ、その先にどうあるべきかの話に繋げていけたらよいと思う。

部会長：

- ・ 今後の協議の中でa キューブにいくらお金が使えるのかという話は出てくると思う。

事務局：

- ・ 先ほど部会員から発言があったように、今市がお金を集中しなければならないのは賑わい広場であり、a キューブにお金を投じられるのかと言われればそれは難しいと言わざるを得ない。しかしながら、先ほど部会員から意見のあったa キューブに壁をつくれないう話であれば、事業費を抑えた形で応じることもでき得ると思う。

部会員：

- ・それなら、どこまでならお金をかけられるというボーダーラインを設けて、それ以上はできないということで進めていかなければならないであろう。

部会員（観光振興課）：

- ・現時点で a キューブを壊して何かを新築するという考えはない。今の a キューブを活かしてどう賑わいを創出していくかを議論していきたい。

部会員：

- ・ a キューブのある金津本陣にぎわい広場について、土地活用検討街区を含めて一体的に考えていくのか。

事務局：

- ・土地活用検討街区については、駅西口エリア活用促進協議会においてビジネスホテル等の民間事業者が進出できるように検討を進めているが、状況によっては金津本陣にぎわい広場も含めて検討していくことも今後考えられる。

部会員：

- ・個人的な提案だが、毎日少しずつ使ってもらえるような広場とするために、机や屋台があるとよい。その都度借りたりしているとお金も手間もかかるので、容易に組み立てて使えるような屋台があって、それを収納できる規模のバックヤードを1階部分に設けられるよう検討してほしい。ワークショップ等でみんなが集まって屋台をつくるなどの試みもできるとよい。

部会長：

- ・図面に描かれていないのでわからないが、ステージは可動式がよいのか、固定式がよいのか、サイズはどれくらいがよいのかなどを、今後、協議していくという理解でよいのか。

部会員（観光振興課）：

- ・そのとおりである。次回以降の部会で協議しながら、基本設計に反映していきたいと考えている。

部会員：

- ・朝市や屋台ができるとよい。

部会員（観光振興課）：

- ・先月、浜町未来酒場で屋台をやっていたが、あのような取組ができるとよい。

部会員：

- ・そのときの屋台は、福井工業大学の学生がつくったものである。食べ物は即完売といった状況で大変賑わっていた。

部会員：

- ・ノウハウのある大学生に屋台の作り方を教えてもらうなどの取組に発展できるとおもしろいのではないかと。

部会員：

- ・いいアイデアだし、実現できると思う。

(4) その他

【次回開催日時】



・ 6月10日(月)19:30～ あわら市役所 101 会議室 ※新体制での第1回会議

#### 4 閉 会

部会員（福井工業大学教授）：

・いよいよこれからまちをどうしていくかという段階となり、これからが非常に重要であり、ギアを入れ替えていかなければいけない。全国にまちづくりの成功事例はたくさんあるけれど、いっぱいお金をかけたからどうこうではなく、お金をかけずにリノベーションをしたり、小さなお店や個人が本気になって動きを起こしていくというのがだんだん広がっているのがうまくいっている要因である。役所に頼って、税金を使ってとか補助金をもらってという話がメインになってはいけない。今度から、新しいメンバーを迎え入れて、次の動きにつながるような議論がこの部会でできることを願いたい。いろんな事例をみんなで勉強しながら、その中で自分がやってみるという動きが出てくるとよいし、そうした動きをサポートしていくというのが、役所の本来の仕事となるべきである。引き続き、ともに頑張りましょう。